

会議録

概要

会議名	豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会 第1回多文化共生推進分科会
日 時	2025 年 8 月 7 日（木）13：30～16：35
場 所	豊岡市役所 3 階 庁議室
出席者	委員：5 人（敬称略） 岸田尚子、木谷妙子、久木田里奈、三宅清子、姚瑶 ※うち1名はオンライン参加 庁内委員：9 人 アドバイザー：田村太郎 氏
事務局	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課 原田紀代美、道下一、稲田直子、大森毅

議事

1 木内委員長あいさつ

- ・日本にも固有の文化・言語がある。多文化共生について、外国ルーツの方々だけでなく国内の多文化・多言語についても大切にしていける必要がある。

2 情報提供

(1)テーマ：「これからの外国人受入れと地域に求められる取り組みについて」

豊岡市多様性推進アドバイザー 田村太郎 氏

（要旨）

- ・2006 年に総務省が「多文化共生推進プラン」を策定し、自治体に計画的な施策を求めたが、実施状況は限定的。
- ・2018 年に新しい在留資格「特定技能」を導入し、技能実習制度を 2027 年までに廃止予定。首相官邸に「外国人との秩序ある共生社会推進室」を設置するなど、制度整備が進行中。
- ・特定技能には「1 号」と「2 号」があり、熟練度や家族帯同の可否が異なる。技能実習制度からの移行が可能だが、短期間で労働者が交代する仕組みが地域社会に負担を与えている。
- ・日本語教育や生活支援が不足しており、地方では支援機関が少ないため、企業の負担が大きい。
- ・外国人労働者を地域住民として平等に扱い、長期的に定着できる環境を整備する必要がある。
- ・日本語教育や生活支援を充実させ、地域全体を住みやすく働きやすい社会にすることが重要。コミュニティセンターや自治会活動を通じて、地域住民と外国人の交流を促進するなどの対策が考えられる。
- ・経済的理由だけでなく、平和に暮らしたいという理由で移動する外国人が増加している。
- ・日本の魅力を高め、安心して暮らせる環境を提供することで、多文化共生社会を実現することが重要。
- ・地域社会が人口変動やジェンダーギャップを考慮し、外国人を含めた住民が安心して暮らせ

る社会を目指すべき。

〔質疑応答〕

※質問なし

(2)アンケート調査結果（速報）

神戸大学大学院人文学研究科 准教授 佐々木 祐 氏

〔質疑応答〕

A委員：市から事業を受託して多文化交流サロンを実施している。アンケートの中でも外国人の方が多文化交流サロンに参加してみたいとの声があった。私たちの団体でも市のほうでも広報活動を行っているが情報が外国人の方に届いていない。市の方で年度当初に多文化交流サロンのPRを行ってほしい。

佐々木氏：今回の外国人向けのアンケート調査に同封したチラシにも多文化交流サロンの情報は掲載してPRを行っている。

田村アドバイザー：（外国人のアンケート結果の中で）行事に参加している人、防災訓練に参加している人と自治会に加入状況との関係性について見えてきたようなことがあれば教えてほしい。

佐々木氏：現時点ではクロス集計まではできていないので正確なことはわからないが、自治会に加入している人の方が防災訓練への参加率は高いと考えられる。今後、このあたりも見していきたい。

B委員：（運営している施設には）ベトナム、ネパールの方がおられ、もうすぐミャンマーの方が来られる予定。それぞれの文化を尊重しており大きな問題はないが、地域の防災という点に着目して情報提供を行っていくことが大切だと考える。

佐々木氏：防災のためにも外国人の防災訓練への参加は必要だ。また、防災を切り口に地域に参画してもらうこともできる。共生のためにも防災の情報提供や参画は重要だ。

C委員：アンケートの中で、家族滞在の外国人の割合が増えているが、子どもに関する調査項目が少ないと感じる。また、ベトナムの方が人数的にも多いが回答率が低いことは問題だと感じる。

佐々木氏：ベトナムの方の回答率が明らかに低いことは問題だと感じている。
子どもに関する質問については、子どもの年齢、住んでいるところ、進路について聞いているが、現時点で整理ができていないため本日は共有していない。次回、報告させていただく。

(3)豊岡市の外国人の状況

事務局より説明

3 協議事項

グループごとのワークショップ

ワーク① 今までの取組状況や実績（第1回会議資料）、アンケート調査結果を踏まえて、気づいたこと、この5年間で変わったと感じることはありますか？

ワーク② 今後どのような取組みが必要だと思いますか？

ワーク③ 戦略目的「暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている」状態とは、どういう状態ですか？何を指標にしたら良いですか？

Aグループ

- ①・外国人の保護者が学校などの提出書類について困っている。
 - ・学校での生活やルールが理解できないなど生活していくうえでの難しさが見受けられる。
- ②・外国人は職場での困りごとについて、日本人のように職場の同僚に相談しにくいのでサポートが必要。
- ③・分からないことや困ったことがあればすぐに相談できるような方がそばにいることが大切。例えば、豊岡市が運営しているファミリーサポート事業の外国人バージョンのようなイメージで、困っている外国人と支援したい日本人もしくは外国人をマッチングするような仕組みもよいのではないか。
 - ・指標についても、ファミリーサポート事業の外国人バージョンのサポーター登録者数にするのもよいのではないか。

Cグループ

- ①・スーパーや自転車に乗っている外国人の方を街の中で見かけることが多くなった。
 - ・両親とも外国人の子どもも増えた。
 - ・市役所の窓口でも翻訳アプリなどを使用して対応することが多くなってきた。
- ②・豊岡市から豊岡市国際交流協会への補助金を増やしてほしい。人件費が増えれば新たに人員を雇用することができ、外国人への訪問などの支援ができるようになる。
- ③・外国人へのアンケートでは生活上のトラブルが少なく良いことだと感じたが、外国人に対する偏見の存在は感じる。1人の問題のある外国人がいればその外国人のイメージでほかの外国人を同じような目で見ってしまうような風潮がある。
 - ・暮らしやすい豊岡を目指して外国人の定住者が増えてほしい。自動車運転免許の取得支援や外国人児童へのサポーター配置の期間延長、住宅ローン手続きなどのサポート、

経済的な魅力を増やすために市内事業所の給与のアップなどが進めばよいと思う。

B グループ

- ①・以前勤務していた職場では福祉の人材への支援などで理学療法士の上司がベトナムへの出張するなど新しい動きがあった。
 - ・豊岡市内の福祉の事業所での外国人の方の受け入れが増えている。
- ②・すべての外国人が日本語を修得できる機会が必要。例えば、子どもを持つ母親が子どもを預けて学ぶことのできる環境や母親と子供と一緒に学ぶことのできる環境の整備などが考えられる。
- ③・外国人市民が先生となり外国人に対して子育てや文化などを教えるような仕組みがあればよい。子育てを終えた外国人の方が子育てを始めた外国人の方に支援するような形が想定できる。
 - ・指標は就学前施設や小中学校での多文化共生教育の実施数がよいのではないかな。

D 委員（オンラインでの参加）

- ①・私の勤務する大学では多文化共生の理解が広がり、教職員や学生の参加が増加している。外国にルーツをもつ子どもに対して、母語・継承語教育を進めてきた。その中で、特に発達障害のある子供への対応など、新たな課題が浮上している。多様な子どもたちをいかにインクルーシブな形で支援できるか考えていきたい。
- ②・外国人に対する偏見や差別が増加している現状があり不安に思う。行政サービスや教育支援の充実が求められている。多言語対応や翻訳・通訳体制の整備が重要だと感じる。
 - ・日本語教育は充実しているが、多文化教育の促進がまだ不十分だと感じる。外国人の子供への理解が進んでいない教員もあり、教育現場での多言語・多文化教育の導入が必要ではないかな。
- ③・暮らしやすいというのは個人によって違うかと思う。暮らしやすい状態ということであれば外国人市民が行政サービスを不安なく利用できる状態や、地元住民との信頼関係の構築が目指すべき状態だと思う。これらの状態を指標にすることは難しい側面もあるので、行政サービス時に外国人の方にアンケート調査などを通じて暮らしやすさを測る方など工夫が必要だと考える。

4 田村アドバイザーからの講評

- ・日本がそうだったように外国人が3年～5年したら帰る出稼ぎの時代は終わった。豊岡市から人が出ていくのも自分らしい生活がしたいために出て行っている。これから日本に来る外国人は出稼ぎではない。自分らしく生きるために日本にくる時代になっている。
- ・外国人が求めるものは生活の安定から生活の充実にシフトしている。余暇活動や自己実現、キャリアアップなどの視点を広げてプランの改定や取り組みの改善を行ってほしい。
- ・活躍したい在住外国人の方に、新しく来る外国人の方のオリエンテーションに参加し先輩としてアドバイスしてもらおうなど、外国人の方に活躍の場を創出することも重要。

- ・外国人受け入れの基盤である日本語教育の多文化教育の充実は必須。予算についても確保しないといけない。そのためには、取り組み自体を地域住民の共通理解としていくことが重要。
- ・今後は外国人が同僚になり上司になることが当たり前になる。外国人も活躍できると思えるような地域していくことが重要。
- ・プランの改定は次のステージを見据えたときに、何が足りていないかを見定めて充実させてほしい。

5 事務連絡

6 閉会